日本アニメーション学会　研究・教育委員会

シンポジウム

新潟国際アニメーション映画祭
Niigata International Animation Film Festival

帝国主義、戦争、アニメ：日本アニメと「力」をめぐる諸観点

登壇者

アーロン　ジェロー
Aaron GEROW
イェール大学（米国）
「映画理論と帝国
今村太平のアニメーション論」

登壇者

小島伸之
上越教育大学
「アニメは戦争観の形成に如何に
かかわっているのか」

企画・司会
ヨ ア ヒ ム　アルト
Joachim ALT
新潟大学

2026年2月22日（日）
14時00分～15時40分
開志専門職大学
古町ルフルキャンパス
11階（対面のみ）

登壇者

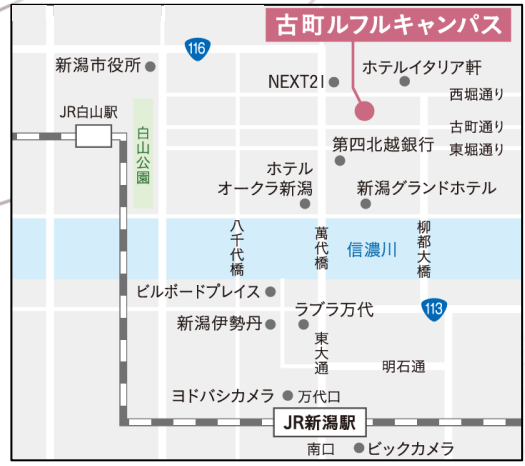
萱間 隆
インディペンデント研究者
「アニメーションと植民地主義
―『桃太郎 海の神兵』の挿入歌
を中心として―」

登壇者

三原龍太郎
慶應義塾大学
「英語圏のアニメ研究を脱植民地化
するための発表」

入場無料

事前登録不要



JSAS 日本アニメーション学会 Japan Society for Animation Studies

新潟大學 NIIGATA UNIVERSITY

KAISHI

https://niigata-iaff.net/

お問い合わせ：joachim.alt.gsn@niigata-u.ac.jp

Aaron GEROW

「映画理論と帝国　今村太平のアニメーション論」

日本における映画理論の歴史は長く豊富であるにも関わらず、それに関する研究は日本内外でも非常に少ない。その例外の一つはドキュメンタリーとアニメーションの理論化に大きく貢献した今村太平に関する研究であるのだが、彼の理論――特にドキュメンタリー論とアニメーション論の関係――とその理論の歴史的な文脈と背景についての研究はいまだ進んでいるとは言えない。この発表は今村の歴史的な文脈を理解するために、当時の日本の映画理論の状況、特に理論と帝国主義の関係について明確にする。今村の「理論」の定義と彼が提唱した理論の役割そのものを帝国主義の権構造を反復したことを指摘することによって理論と戦争の関係を論じる。

萱間 隆

「アニメーションと植民地主義―『桃太郎 海の神兵』の挿入歌を中心として―」

本発表は、日本初の長編アニメーション映画とも称される『桃太郎海の神兵』（1945）を取り上げ、戦時下におけるアニメーションと植民地主義の関わりを考察するものである。本作は、桃太郎率いる日本海軍が南方地域を統治する過程を描いている。その代表例が、現地の動物たちに「アイウエオの歌」を通して言葉を教える日本語教室の場面である。こうした描写は日本国内の観客に対し、「大東亜共栄圏」の構想が実現しつつあることを宣伝する役割を担っていた。さらに、この場面には、植民地の人々に対する教化の意図も認められる。戦時下、日本のアニメーション映画は頻繁に輸出されており、現地の映画館で上映されてもいた。加えて、「アイウエオの歌」は植民地の住民に日本語を普及させる目的で制作された文化映画においても使用されている。こうした事実から、本作の日本語教室の場面は、現地住民に対する日本語教育を目的としていただろう。このように、本作品が日本国内と植民地という双方の観客を標的とし、それぞれに対して異なるメッセージを持っていたことを指摘する。

小島伸之

「アニメは戦争観の形成に如何にかかわっているのか」

2010年代より、日本は「右傾化」しているという指摘がなされるようになった。こうした「右傾化」がどのような内実を持つものであるのか、また、どのような要因によるものであるのかについては、様々な議論がなされている。戦後生まれの日本人にとって、一般的に「戦争」に関する知見は、学校教育、ニュース、ドキュメンタリー、書籍や映像作品などの間接的知見を通じて与えられる。では、それらの間接的知見は人々の戦争観にどのような影響を与えているのであろうか。本報告は、その中でもアニメーションに着目する。アニメーション作品のジャンルは多岐にわたるが、「戦争」をテーマとした作品群は主要なジャンルの一つとなっている。実際の戦争を扱った作品も少なからず制作されているが、特にSF・ファンタジーの世界観における戦争を扱ったアニメの数は数多い。本報告では、2024年3月に実施したWEBモニターを対象としたアンケート調査の分析結果を中心に、アニメ特撮作品の視聴経験が戦争観に与える影響について検討を加えるものである。

三原龍太郎

「英語圏のアニメ研究を脱植民地化するための発表」

英語圏における日本アニメ研究は、アニメのグローバル化の進展と並行してここ30年の間に一定の蓄積がなされ、日本国内外で広く参照されるに至っている。他方で、そのような英語圏アニメ研究に依然として根強く残っている植民地主義的な傾向については、これまで自覚的に省みられてきたとは言い難い。このような問題意識の下、本発表では、英語圏アニメ研究がエドワード・サイードの言うところの「オリエンタリズム」的な思考様式をいかに脱却できていないかを、「権威」とされる著作を例にとりながら検証する。さらに、英語圏アニメ研究をそのような思考様式からいかにして脱却させられるか（すなわち、脱植民地化できるか）についての方策を模索することを通じて、より開かれたアニメ研究の未来を展望する。

プログラム

14:00　開会
14:05　発表　Aaron GEROW
14:20　発表　萱間 隆
14:35　発表　小島伸之
14:50　発表　三原龍太郎
15:05　発表のまとめ
15:10　討論・オーディエンスからの質問
15:30　コメント・まとめ
15:40　閉会

会場アクセス　→開志専門職大学

新潟市中央区古町通7番町1010番

新潟駅北口から
バス　　新潟駅発各

B1〇、C2〇・3〇、W1〇・2〇・7〇系統

のいずれでも
↓「古町」で下車
↓到着バス停で大通りの反対側
↓「ふるまちモール7」の左、新潟駅方面バス停
↓ローソンとココカラファインの間の赤いドア

館内　1階の奥にあるエレベーターで11階まで